

「劔岳点の記」現地ロケにおける測量方法の説明を実施

東映による「劔岳点の記」の現地ロケが、4月7日から立山町で再開されました。

北陸地方測量部では、実技の要請を受け、4月9日、益子防災情報管理官及び関崎測量課長がロケ隊の宿泊先である立山国際ホテルに出向き、測量シーンに必要な測量の実際について説明を行いました。

屋外でのロケを終えて、夕方宿舎に戻った測量官柴崎芳太郎役の浅野忠信さんと測夫生田信役の松田龍平さん、測夫木山竹吉役のモロ師岡さんの三人に、ホテルの大広間で、当時用いられたカールバンベルヒ三等経緯儀と測斜照準儀（アリダード）を実際に使い、その取り扱い方や当時の測量方法などについて、台本の測量の該当シーンをもとに説明しました。俳優さんに直接実技の説明をすることは、初めてのことなので緊張しました。不慣れな説明にもかかわらず、浅野忠信さんをはじめ三人ともとても理解が早く、ポイントを外さず練習し体得してくれるので『さすがプロ！！』と感心させられました。



実際に山頂でのロケは、6月以降からとなるようです。雄大な立山連峰をバックに、明治の測量官達の仕事への情熱を伝える名シーンが撮られることは間違いありません。

資料提供：国土交通省国土地理院 北陸地方測量部

<http://www.gsi.go.jp/LOCAL/hokuriku/>